

LETTER

GraSPP
THE UNIVERSITY OF TOKYO

Contents

- 1ページ 2018年度公共政策学教育部学位記伝達式&修了生メッセージ
- 2ページ GrasPP - SAIS Joint Seminar Report/GPPN 2019 Singapore Completion Report
- 3ページ 学生インタビュー
- 4ページ 交通・観光政策研究ユニット セミナー開催報告:『観光』の再構築～シン・観光を目指して～

旅立ちの日～

2018年度公共政策学教育部学位記伝達式、修了生63名に学位授与

桜が咲き始めた3月25日、2018年度公共政策学教育部学位記伝達式が国際学術総合研究棟SMBC Academia Hallにおいて挙行され、修了生63名に学位が授与されました。

修了生のご親族、本教育部教職員が列席する中、高原明生教育部長から修了生一人一人に学位記が伝達されました。アカデミックガウンやスーツなど華やかな装いを身にまとい、やや緊張の面持ちの修了生たちも、学位記を手にとると晴れやかな笑顔に。また式典では成績特別優秀者1名及び成績優秀者3名の表彰が行われました。



修了生メッセージ

公共政策学教育部専門職学位課程公共管理コース

堀江 葵さん



GraSPPでの2年間を振り返ると、これまでの学生生活の集大成であると同時に、今後の人生の基盤を作る貴重な期間であったように感じます。多様な授業やゼミ、就職活動及びドイツでの半年間の交換留学を通し、多くの方々の人生から学び、自身を見つめ直すことができました。また、友人たちと、試験や発表の前に集まり支え合って乗り越えたこと、留学中に異国の地で感動を分かち合ったこと、官庁訪問に際し共に考えを深め合ったこと……。何気ない日常の中に、沢山のかけがえのない思い出ができました。先生方のご指導、教務課の方々のサポート、そして様々なバックグラウンドを持つ学友たちとの出会いに心から感謝しております。

今後は、霞ヶ関にて行政官として働く予定です。この2年間の学びと喜びを胸に、精一杯努力を重ねていきたいと思っております。

GrasPP – SAIS Joint Seminar

MPP/IP 1年 Lia Cristine Rego Santee



On January 16th, 2019, a Joint Seminar with GraSPP and SAIS (John Hopkins University - School of Advanced International Studies) was held at the International Research Building, SMBC Hall. The event was organized by the GraSPP Student Council at the request of SAIS and had the participation of 47 students, with 24 visitors from John Hopkins University. Relevant topics on Japanese Security were presented by three GraSPP Professors.

First, Prof. Takeuchi made a presentation titled “Defense Policy of Japan Focusing on the New National Defense Program Guideline” where he shared the events for Japan in 2019, the geopolitical security issues of Japan and the government’s approaches to deal with those. Second, Prof. Takahara presented on “Security Issues in Japan-China Relations”, focusing on the diplomatic rapprochement of China and

Japan and the challenges it might face, also sharing the impression Chinese and Japanese citizens have towards the other. The third presenter, Prof. Heng, talked about “Japan in the World Risk Society”, explaining the ambiguity of “Risk” in the age of globalization, and the type of “Risk” that are considered to have more impact in the Japanese society, as the 2018 Summer heatwaves among others.

After the presentations, the students had the opportunity to discuss the topics presented and formulate questions addressed to the Professors. Students seemed particularly intrigued by Japan’s possible constitutional changes, security strategies and the future of its diplomatic relations. GraSPP’s students would be happy to welcome them again in the future.



GPPN 2019 Singapore Completion Report

MPP/IP 1年 You Won Seong



For the first time in my life, I had a great opportunity to go to Singapore for the purpose of academic competition. In the last semester, my group worked hard on our proposal: “A Domestic and International Analysis of Vaccine Implementation and Development.” We hoped to

raise awareness of the need for vaccination in any countries around the globe and we were honored to be selected as one of the four groups to participate in the GPPN Conference in Singapore.

Singapore is a diverse country known to be efficient in governance and social welfare system. As such, it was an appropriate stage for us to introduce our new proposal to the world of our efforts in vaccination. My group was fantastic, not only they were professional and knowledgeable in their own field equally contributing to our topic, but also they encouraged one another so we could bring out our strength. I was glad to be the representor at the conference for the 3-minute presentation. I personally enjoyed the process of challenging myself to stand on the international stage academically competing against other schools and learning their expertise as well. This great opportunity further broadened my vision in my efforts to pursue healthcare research and medicine in the future.

Although we did not make it to the second round for the 8-minute presentation, we still learned a lot more than we could have ever hoped for. We learned the importance of regional focus in developing countries that truly need our attention in this ever-globalizing society. In addition, we were rewarded with cultural excitement in Singapore by traveling and enjoying food and view together. Overall, everything we experienced in Singapore was memorable to become a cornerstone in my academic journey, something that has more values than just a title on my resume.

We truly appreciate GraSPP for their endless support and guidance to our goals in life. Had this not supported by them, none of us would have realized the importance of globalization and collaboration that the 21st century aims for us to interact in a healthy environment. I also would want to give my utmost thanks to my group members; Haruka, Elise, Tsubasa, and Sato-san for their professionalism and support.



Participating groups for GPPN 2019 were selected through GraSPP Policy Challenge 2018.

学生インタビュー

第30回

Zakirov Bekzod さん (博士課程1年)



—なぜGraSPPに入学されたのですか？

ウズベキスタンから2012年に日本に来ました。4年間名古屋大学法学部で勉強して、その後、大学院に行きました。学部の卒業でウズベキスタンの政治をテーマに選び、修士では2年間カザフスタンの政治と石油の問題について研究しました。今はカザフスタンとロシアについて勉強していて、今後はまたウズベキスタンの政治を研究したいと思っています。

名古屋に6年間いたんですが、先生に相談したら「ずっと同じ場所にいると新しいアイデアが出ないから、環境を変えたほうがいい」とアドバイスをもらって。それで、自分でもチャレンジだと思って、東大、GraSPPを選びました。

GraSPPのいいところは理論と実践が両方学べる点ですね。私は理論的に学んだことをどう実現するのかを学びたかったので、実務家の先生が多い環境が良かったんです。GraSPPに来て、リーディングプログラム(GSDM)にも挑戦しました。私のような経済政治を勉強している人と工学部や医学部の学生が、みんな同じところに集まって一つの問題をいろんな観点で考えていく学際的な研究は、色々アイデアがもらえて面白いです。

—日本語がとても上手ですね

ありがとうございます。東京に来てから、もっと日本語をちゃんと勉強しないといけないと思って勉強しています。GSDMのBookClubに入って、そこで1か月に1冊を決めて、皆で読んで議論をしています。例えば、夏目漱石の『こころ』、『それから』、太宰治の『人間失格』等を英語で読んでます。日本の社会や文化を知りたいと思って読んでいたのですが、文学作品は難しいですね。学術書は研究のためにたくさん読みますが、小説はあまり読まないのが苦手でしたが、BookClubで読むようになりました。あと、今まであまり日本の映画を観たことなかったので、観てみようと思って、この間、『万引き家族』を観たんですけど、すごく面白かったです！これまでも、ある程度は日本人と交流してきましたが、それはアルバイト仲間や学校の友達という限られた範囲の日本人で、そこで「自分の中での日本人像」みたいなものが出

来上がっていたんです。でも、『万引き家族』を見て、自分が知っている日本と日本人だけが日本ではないんだと思いました。そういうことも、最近は、少しずつ理解してきています。そういう意味でも、『万引き家族』はとても面白かったです。これからも日本に住みたいと思っているので、日本の社会や言葉や考え方など日本人のことを学んでいきたいです。

—将来の夢は何ですか？

研究を続けて、将来はウズベキスタンの社会を根底の部分から分かっている学者になりたいです。最近はウズベキ人の留学生が増えてきたんですが、家族を経済的に支援したい等の理由で、留学した人の80%くらいは卒業後、日本企業で就職しています。ただ、本当にウズベキスタンの社会に必要なのは研究者、学者だと自分は思うんです。博士で3年研究して卒業した後、研究者として生活していけるか分からないので、理性的に考えると研究の道は難しいとも思うのですが……。でもウズベキスタンの国のため、社会のためを考えると、誰かが学者にならないといけないと思って。自分は研究者、学者になって、国や社会のためになる役割を果たしたいという夢があるので、それを目指して頑張ろうと思っています。(インタビュー・文責 編集担当)



一番右がBekzodさん

『観光』の再構築 ～シン・観光を目指して～

特任教授 長谷知治



2019年2月13日(水)、東京大学本郷キャンパス、伊藤国際学術センター伊藤謝恩ホールにおいて、標記セミナーが開催されました。本セミナーは、2005年10月に設立された国際交通政策研究ユニットの活動の一環として実施されたものです。当日は、行政(国・地方自治体)、マスコミ、観光関係者、交通関係者、シンクタンク、一般の方、教職員、学生など多方面から400名近い方々のご参加をいただきました。

昨年訪日外国人客は年間3000万人を超えとなり、また、国内の旅行消費額は約27兆円の規模となっております。さらに、ゴールデン・スポーツイヤーとも言われるように、2020年の東京オリンピック・パラリンピックが直ぐ目前に迫っています。今や『観光』は、産業や消費行動を区分する概念という位置付けを超え、あらゆる経済活動、行政・外交、人々の生活全般が拠って立つ「指針」となっているとも言えます。このため、本セミナーでは、観光の持続可能な発展・定着のために、多様な視点から、日本の『観光』を見つめ直し、また考察するために開催しました。

本セミナーでは、まず、宮田亮平 文化庁長官より、「文化の新たな発見は観光に繋がる」と題して基調講演を頂きました。基調講演ではストーリーのなかで文化と観光を結びつけていく必要性を強調されたほか、多様な事例を用いてお話を頂きました。

次に、田端浩 観光庁長官、清野智 日本政府観光局(JNTO) 理事長、原田劉静織 株式会社ランドリーム代表取締役、パ

リー・ジョシュア・グリズデイルアクセシブルジャパン主宰によるご講演、その後大橋弘公共政策大学院副院長をモデレーターとして4名のご講演者とパネルディスカッションを行いました。ご講演ではそれぞれの取り組みを紹介いただいた上で、パネルディスカッションにおいては、「観光」で大きく変わりつつあると考えられる点、「観光」の将来を見据えた「学」の対応及び「学」への期待等についてご議論いただきました。また、モデレーターの下、パネリスト相互間でもやり取りを行うなど活発なディスカッションを展開しました。

最後に閉会挨拶として、宿利正史客員教授より、4月より新たに観光政策に関する講座を開設するなど活動を充実強化すること、また、本セミナーはそのお披露目も兼ねて企画されたことを紹介したほか、観光政策の講座の担当教員の紹介を行いました。

私どもとしては、本セミナーにおいて示されたご指摘を肝に銘じながら、今後とも活動を行っていきたくと考えています。なお、ご紹介したように、観光に関する活動の充実強化を受けて、4月1日より交通・観光政策研究ユニット(TTPU)に名称を変更しております。ニュースレター読者皆様方におかれましても、当ユニットによる活動に対して、今後ともご支援をお願いします。なお、セミナーの当日の資料につきましては、当ユニットホームページをご覧ください。

<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/TTPU/seminar/2019-02-13/index.htm>



編集後記

2019年4月30日で「平成」が終わり、5月1日からは「令和」の時代が始まりました。平成の時代に起きた様々な出来事の中の1つにGraSPPの設立がありますが、2004年(平成16年)4月設立以来、多くの学生たちがここで学び、巣立っていきました。今回、記念すべき「令和元年修了生」となった皆さんの益々の活躍と幸せをスタッフ一同心から願っております!(編集担当)

vol.

54

NEWS
LETTER

【編集・発行】東京大学公共政策大学院 【発行日】2019年5月30日

113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
E-mail grasppnl@pp.u-tokyo.ac.jp
<http://www.pp.u-tokyo.ac.jp/>